



障害当事者参加による地域社会づくり

社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

河村 ちひろ 教授

【研究分野】 障害者保健福祉、ソーシャルワーク

【キーワード】 障害、当事者、てんかん

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=196kawa>



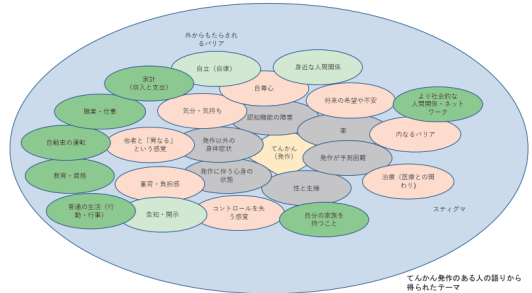
研究概要

- てんかん発作のある人々の保健福祉に関する研究
- 病気・障害の経験者からみた社会に関する研究
- 障害者保健福祉施策における相談支援の現状と課題に関する研究

研究紹介

● てんかん発作のある人々の語り

日常生活・社会生活を送るうえで、てんかんという疾患がどのように影響しているのかについて、てんかんのある人本人に対してインタビュー調査を行った。協力者は25歳以上65歳以下。小児期または成人期に発症した人（高齢期に発症したてんかんは含まない）。ことばのコミュニケーションが容易な方をお願いした。



語りから得られたテーマは26種類に及びそれらは(1) 病気に伴う心身の変化および治療に関連する事項（図の灰色の部分）、(2)日常生活・社会生活への影響（緑色）、(3)心理面への影響（オレンジ色）、(4)本人の外側にある問題（水色）の4つに整理することができた。

てんかん発作と直接的にまたは間接的に関係するその他の心身の状態や症状に関する課題が、場合によってはてんかん発作やその症状よりも生活上の課題と大きいことが示唆された。たとえば、発作のコントロールが難しくかつ軽微な認知障害の低下がみられる場合では、周囲の人間との関係がうまくいかず不全感や精神的な不安定さがある。

てんかんのある人々への既存のセルフマネジメントプログラムの活用と主に、継続的かつ個別の対応の充実が必要である。

講座テーマ紹介

● 障害当事者とともに行う講座

地域住民が病気や障害を理解し共生社会を目指すための講座

アピールポイントなど

自治体の自立支援協議会、障害者計画・障害福祉計画の策定委員会、社会福祉法人内に設置された利用者権利擁護のための委員会などに参加しています。